

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0991100025		
法人名	有限会社マイホームコリーナ		
事業所名	グループホーム来夢		
所在地	栃木県矢板市石関1317-3 (電話) 0287-41-8201		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年5月28日	評価確定日	平成20年6月23日

【情報提供票より】(平成20年5月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤6人(うち兼務1人), 非常勤3人, 常勤換算6.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> <li>水道光熱費—600円/日</li> <li>日用品費—100円/日</li> <li>娯楽教養費—100円/日</li> <li>個人電気代—100円/日</li> <li>理美容代、おむつ代—実費</li> </ul>	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年5月8日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名	
要介護1		名	要介護2		2 名	
要介護3		4 名	要介護4		1 名	
要介護5		1 名	要支援2		1 名	
年齢	平均	84.8 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	矢板南病院、田中歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の代表者が通所介護や宅老所の運営経験からグループホームの必要性を痛感し、1年前に開所した。名称の「来夢」は「くるむ」と読み、夢の実現や入居者をやさしく包むという意味を示している。「自分の親に受けさせたいケア」「自分が受けたいケア」をモットーに、入居者の人格の尊重・向上心をもった職員の育成を目指したホーム運営を行っている。職員と入居者がゆっくり向き合い、とことん付き合うことによって入居者が落ち着きを取り戻したり、入居者同士が触れ合い合って生活が活性化したりするグループホームケアの良さが発揮されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が自己評価を記入し、管理者がまとめる方法で自己評価を実施した。職員は自己評価を通して日頃のケアのあり方を振り返る機会になり、地域密着型サービスについて理解が進んだと話している。自己評価を実施して、地域との関わりをどのようにするか、ホームの施設をどうするかなどの検討課題が見えてきた。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>入居者、家族、民生委員、有識者、自治会長、地域住民、市職員などをメンバーにした運営推進会議を開設以来3回開催し、今後2ヶ月に1回開催することとしている。初めての会議では様々な質問が出たために、会議ごとにテーマを設けることが提案され、運営推進会議の進め方や緊急時対応をテーマとして、順次、話し合っている。運営推進会議での話し合いから同業者との交流が実現した。緊急時対応は職員の内部研修のテーマでもあり、会議の結果がサービスの向上に活かされることが期待できる。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>家族が毎月直接ホームに来て利用料金を支払っている。その際に入居者の健康状態や様子をほぼ毎日記載した書面を渡して報告している。4月にホームの暮らしや職員を紹介した初めての広報誌、「来夢だより」を発行した。今後、年2回くらい発行したいと考えている。家族には運営推進会議で意見や苦情、要望を述べてもらう機会としている。また、重要事項説明書に苦情受付窓口として、ホームの受付先と矢板市の窓口を記している。特に目立った苦情の申し出は今のところない。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>地域の自治会に加入し、自治会長には運営推進会議の委員になってもらっている。回覧板も回ってくることから地域の情報も把握しやすい。現在のところ自治会活動に積極的に参加するというよりは、地域住民にホームの存在を理解してもらう努力をしている段階である。近隣住民とは散歩の折に挨拶をしたり、お茶に誘われたり、農作業を教えてもらったり、と良い関係を築きつつある。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人格の尊重」「自分が受けたいケア」「職員として向上する気持ち」を何時も念頭に置いてケアにあたることを理念として掲げている。また、法人の通所介護事業所の経験から、地域から信頼を得ることを心がけた事業運営をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を記した額をホームの居間に掲げ、申し送りの時に確かめ合っている。職員は、入居者の気持ちに添って、親しみを込めて敬語を使うことを互いに気をつけて、ケアを実践している。また、ホームでは内部研修を通して「自ら学ぶ職員」の育成に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、自治会長には運営推進会議の委員になってもらっている。回覧板も回ってくることから地域の情報も把握しやすい。近所の方とは挨拶を交わしたり散歩時に休ませてもらったり、畑の指導を受けたりしている。現在のところ自治会活動に積極的に参加するというよりは、地域住民にホームの存在を理解してもらう努力をしている段階である。	○	ホームの運営上、地域住民との良好な関係は重要と考えている。地域住民に、ホーム行事に参加してもらったり、気軽に遊びに来てもらえるような機会づくりなどを工夫していくことに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価を記入し、管理者がまとめる方法で自己評価を実施した。職員は自己評価を通して日頃のケアのあり方を振り返る機会になり、地域密着型サービスについて理解が進んだと話している。自己評価を実施して、地域との関わりをどのようにするか、ホームの施設をどうするかなどの検討課題が見えてきた。	○	職員は良いホームづくりに向けて熱意に燃えている。評価結果をサービスの向上に活かすよう計画的に取り組んでいくことに期待したい。

グループホーム来夢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、民生委員、有識者、自治会長、地域住民、市職員などをメンバーにした運営推進会議を開設以来3回開催し、今後2ヶ月に1回開催することとしている。初めての会議では様々な質問が出たために、会議ごとにテーマを設けることが提案され、運営推進会議の進め方や緊急時対応をテーマとして、順次、話し合っている。運営推進会議での話し合いから同業者との交流が実現した。緊急時対応は職員の内部研修のテーマでもあり、会議の結果がサービスの向上に活かされることが期待できる。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設1年目ということもあって、市担当者には様々な疑問に答えてもらっている。運営推進会議のメンバーとしても助言をもらっている。市の取り計らいで、市内のグループホームとの情報交換会が設けられた。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が毎月直接ホームに来て利用料金を支払っている。その際に入居者の健康状態や様子をほぼ毎日記載した書面を渡して報告している。4月にホームの暮らしや職員を紹介した初めての広報誌、「来夢だより」を発行した。今後、年2回くらい発行したいと考えている。	○	広報誌の継続発行を期待したい。また、家族ごとの事情や知りたいことに合わせた報告の仕方を工夫していくことにも期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には運営推進会議で意見や苦情、要望を述べてもらう機会としている。また、重要事項説明書に苦情受付窓口として、ホームと市の窓口を記している。特に目立った苦情の申し出は今のところない。	○	ホームとしては「苦情がないのは、入居者や家族に『お世話になっている』との意識が強く、不満を申し出にくいのではないかと感じている。「気軽に話せる」雰囲気づくりを今後期待したい。複数の窓口を提示するという意味で、重要事項説明書に「国民健康保険団体連合会」の苦情相談受付窓口を記載しておくことも期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている	非常勤職員には、同法人の通所介護事業所と兼務している職員もいて、馴染みの関係が薄くなる場合もある。常勤職員は異動をさせず、入居者と家族のようなしっかりした絆が結べるよう取り組みたいと考えている。		

グループホーム来夢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の代表は、理念にも掲げているように、サービス向上には自ら調べ学ぶことのできる職員の育成が欠かせないと話す。毎月の内部研修では職員が順番にテーマを担当しており、認知症や感染症に続いて、次回は緊急時の対応が学習テーマとなっている。自分の休みを利用して市の介護予防研修に参加し、ホームのサービスに役立てたり市民の指導にも取り組みたいと考えている職員もおり、熱意のある職員集団が形成されつつある。	○	内部研修の更なる充実とともに、資格取得や情報収集、最新知識の獲得のために、職員が外部研修を順次受講できるよう、計画的に取り組んでいくことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議での話し合いから、市の仲介で市内にもう一つあるグループホームと定期的に情報交換会が持てるようになった。レクリエーションの工夫、職員同士の情報共有の方法などの情報を得て、日常のケアに活かしている。開設初期にはいろいろなグループホームを見学し、「来夢」らしいグループホームづくりに役立てた。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の入居者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入院先からの退院後に直接入居する場合も多く、入居者によってはホームに馴染むまでに時間がかかることがある。入院で生活活動度が下がっていても、ホームで生活リズムができ、外出したり他の入居者との交流が進むにつれ、介護度が下がる傾向も見られる。職員は入居者の話によく耳を傾け、とことん付き合うという姿勢でケアに当たることを心がけている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者から子育てや戦争、姑との関係などの話を聞き人生について学ぶことが多いと話す。日常生活では農作業や料理方法、食材を無駄なく使い切る知恵を学んでいる。調査当日もスイカの縁の部分で作った即席漬物が献立に入っていた。職員は「人生で今が一番幸せ」という入居者の言葉に励まされてもいる。		

グループホーム来夢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者を兼ねている管理者が主に本人や家族から意向を聞き、はっきりした意向が示されない場合は言葉の端々から意向をくみ取って、ホーム独自のアセスメント書式にまとめて計画作成に役立てている。病院からホームに入居した場合は情報が少なく、ホームで個別に対応する中から、徐々に人となりや趣味、考え方を把握するようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる入居者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	最初の聞き取りのあとに計画作成担当者がケアプランを作成し、本人や家族も交えてサービス担当者会議を開いている。これは本人、家族にケアプランを説明するための集まりの要素が強い。その後、職員の観察や日常生活支援の中から見えてきたニーズや課題を拾い上げて、より詳細な個別援助計画を立てている。入居者の状態をより詳しく把握するために、各職員がそれぞれ数名の入居者を担当している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて個別援助計画にある介護目標のモニタリング、評価を実施し、日々のケアの振り返りに役立てている。また、朝の申し送りや午後の休憩時に、状態変化のあった入居者のケースカンファレンスを実施している。これらの情報を総合し、必要に応じて計画の見直しや新たな計画策定をすることになっている。現在のところ、緊急に見直しを要する事例はない。	○	法人の代表は、管理者が日々の計画策定や書類の作成に追われていると感じており、計画策定業務の効率化や作成書類の取捨選択をする必要性があると考えている。これらを検討する中で、計画策定や計画の緊急見直しの手順などを明確にすることにも期待したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の急な外出、外泊希望に応じたり、家族の状況によっては受診・通院の支援をしており、看護師は入居者の服薬管理をしている。お金を自分で持ち利用料を自分で支払う入居者もいることから、職員は家族と相談して、置き場所や金額などを把握し、支払い、外出、買い物などを支援している。		

グループホーム来夢


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に定期的に家族と受診している入居者がいる一方で、家族の状況により付き添いができないときは職員が受診支援をしている。家族による通院介助のときは受診ノートで入居者の様子を医師に情報提供し、受診結果を家族から聞いて職員が記録に残すことによって、家族、医師、職員の情報共有をはかっている。入退院時も病院の相談員や主治医と情報交換をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約の時に重度化、終末期の対応について家族に説明している。病院を指定する家族もいる。ホームとしては入居者や家族の意向を聞いてできれば看取りを行いたいとしているが、今のところ職員を交えての話し合いはしていない。	○	重度化した場合や終末期の入居者を支えるためには、職員の力量・家族や医療等との連携が必要である。ホームでは方針の明確化、関係者の方針の共有が必要であることを認識しているため、早い時期に本人・家族・かかりつけ医・看護師・職員と話し合いの機会をつくって方針の明確化・共有化を図っていくことに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は、入居者一人ひとりを尊重し、頭ごなしに話さないよう気をつけている。2ヶ所あるトイレスペースの一方は、車椅子の介助がしやすいという理由で外扉は開けたままのことが多く、また、個々のトイレ室の入り口がカーテンであるためにプライバシーの確保に難がある。記録類は入居者からは目に触れない事務室に置かれてあり、持ち出し禁止としている。	○	職員は、排泄を支援する際に小声で声かけをするようにしている。しかし、トイレの外扉が開いた状態やカーテンの仕切りについて入居者からは苦情が言い難いこともあるので、全職員でプライバシーの確保について具体的に確認し合うことを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、その日にしたいことの希望を聞いて買い物や散歩、よもぎ・山菜摘み、庭いじり、草むしり、畑の手入れなどを、体調に配慮しながら入居者の気持ちにそって支援している。居室にいた入居者が、昼食のときには食堂へきて一緒に食事をするなど、その人のペースに合わせた支援がされている。また自室で物書きを好む入居者もいる。		

グループホーム来夢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立担当職員が入居者の好みを取り入れて立てている。食事の準備・調理・配膳・下膳・洗い物は得意な入居者が率先して行っている。職員は入居者と一緒にその日の食材や入居者の昔の体験（仕事や戦争など）を話題にしながら楽しく食べていた。畑で収穫された野菜や散歩中にとってきた、ふきのとう・山菜などが食卓に上ることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日で男性、女性が決まっているが、希望に合わせて時間や曜日は変更でき、仲のよい人同士入浴したり、そのときの気分で一人で入ったりしている。浴槽は檜づくりで、入居者が入りやすく安全な深さに調節されていた。小さい檜角材の香り袋を入れたり、季節感のあるゆず湯など、入浴を楽しめるよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は朝の時間帯に職員に見守られながら掃除・洗濯を行い洗濯物を干している。草むしりが得意であったり、庭いじりや畑作業の好きな入居者は職員と花や野菜の手入れをしたり、よもぎを摘んで饅頭作りをすることもある。絵や文章書きの好きな入居者の作品が食堂や玄関に飾られており、皆の目を楽しませている。以前の職業柄、率先して下膳や食器洗いをする入居者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、饅頭作りの好きな入居者はよもぎを採りに散歩に出たり、買い物の好きな入居者は職員とスーパーに行って食材を選んだり、自分の買いたいものを買うことが日常となっている。花見の季節には近所の庭で花見をするなど、入居者が戸外に出られるよう支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームがJRの線路に近く危険、ということや市の地域密着型サービス運営委員の指導もあり、中扉の鍵を掛けることがあるが、職員は鍵をかけずに開放的な毎日を送り、入居者にとってホームが楽しい居場所になるよう取り組みたいと考えている。	○	昼夜を通して1時間ごとに入居者の所在、様子を確認して記録に残すなど、見守りが徹底されている。今後は、入居者一人ひとりの外に出たくなる理由やパターンを把握したり、鍵を掛けることの弊害についての話し合いを重ね、近所の人にも声かけや連絡をしてもらえる関係を築き、全職員で鍵をかけないケアに取り組んでいくことを期待したい。

グループホーム来夢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	間もなく開所1年になるが、避難訓練は実施されていない。緊急時マニュアルが整備され、事故・防災委員会担当の職員の計画で近いうちに緊急時の訓練を行う予定である。運営推進会議で災害時に地域の協力を得られるよう話し合っている。	○	マニュアルの火災時シミュレーションを消防署の助言や協力を得て実態にそって見直しをしたり、夜間の夜勤職員一人体制を想定して入居者と一緒に避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を繰り返していくことを期待したい。また今後も自治会にお願ひしたり運営推進会議で呼びかけて、地域の方々との協力体制を築いていくことを期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士の助言を得て、1日に必要なカロリーが摂取できるように献立担当職員が立て、おおまかな一人ひとりの食事・水分摂取を個別記録チェック表に毎日記載し把握している。この記録により入居者の摂取状況を把握しやすくなっている。水分は、3回の食事、10時、軽い体操や花壇・畑作業の後、入浴後、3時、要望のあったときなど、十分摂取できるよう支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、入居者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物まわりには垣根や花壇、玄関先には季節の花のプランター、裏庭にはミニ菜園があり季節感が感じられる。食堂を兼ねる居間には入居者の作品や行事の写真や飾り、浴槽は檜づくりにしたり、カーテンはやわらかい色使いで入居者にとって快適な空間づくりの工夫や配慮がある。また居間から一段高くなっている和室では洗濯物をたたんだり足を投げ出してくつろぐことができる。和室の上がりかまちに腰をおろして他の人の輪投げを見て楽しんでいる光景がみられた。	○	玄関を出ると急な斜面なので高齢の入居者には危険であることを事業所は認識していて、外出の際は入居者に職員が必ず付き添っている。運営推進会議や建築、福祉関係者の助言を得るなどして、安心して安全に外へ出ることができる玄関周りの工夫と整備を期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口には母の日に職員が作った花束が添えられ、ちぎり絵で描かれた手作りネームプレートが掛けられている。室内には写真・自作の絵・書などの作品やお孫さんからのプレゼントが飾られ、使い慣れた桐タンス・机・椅子・テレビ・ポータブルトイレなども持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。壁には長い1本の板を張って飾り物や衣類が掛けられる工夫が施され、思い思いに利用されていた。希望により簡易畳が敷かれた居室もある。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。